

N
I
E

実 践 報 告 書

2023(令和5)年度



Newspaper in Education

群馬県N I E推進協議会

Contents

ごあいさつ	群馬県 NIE 推進協議会 栗原 幸正	
主体的・対話的に学ぶ児童の育成 ～ NIE を通した思考力・表現力の育成～ 安中市立後閑小学校.....		6
2023 年度 NIE 活動実践報告書 板倉町立西小学校.....		10
新聞を活用して学ぶ児童の育成 ～新聞に親しみ、活用する実践を通して～ 邑楽町立長柄小学校.....		14
教育活動を充実させるための手段としての NIE の活用 館林市立第二小学校.....		18
「読解力を身につけた児童の育成」を目指すための NIE の活用 ～新聞を活用して語彙力、読解力、表現力を向上させよう～ 千代田町立東小学校.....		22
「新聞に慣れ、親しむ」ための児童の育成 ～「NIE タイム」「校内研修一人一実践授業」を通して～ 千代田町立西小学校.....		26
交流し、協働し、広い視野をもつための NIE の活用 ～作品投稿と授業での活用を通して～ 太田市立北の杜学園.....		30
「授業における深い学びの実現」を目指すための NIE の活用 ～新聞に親しむ、慣れる、触れる活動を通して～ 千代田町立千代田中学校.....		34
新聞を活用し、世の中をより広い視野で見ることのできる 生徒の育成 ～実際に新聞に触れたり、活用したりする実践を通して～ 嬬恋村立嬬恋中学校.....		38



ごあいさつ

群馬県NIE推進協議会 会長 栗原 幸正
(高崎健康福祉大学人間発達学部 学部長)

令和5年8月3日、4日に開催された第28回NIE全国大会松山大会では、ICTとNIEをどのような形でコラボさせて発展させていくことができるかについての新たな取り組みが提案されておりました。参加するまでの印象は、何が何でもICTを活用するという方向性は、果たして本当にNIEにとって、また日本の学校教育にとって良いのだろうかというものでした。しかし、大会2日目の授業研究で、授業公開に臨んだ児童生徒がICTを効果的に活用して学びを深める姿に注目が集まり、授業公開後の研究会においてもICT活用の効果についての大きな期待が語られ、ICT活用がNIEを大きく変革していく事は間違いないように感じられました。しかし、やはり何か腑に落ちないものを感じたこともまた事実でした。

さて、その時感じた腑に落ちないものとは何だったのでしょうか。それは、ICTを活用した取り組みが、どれもスピーディーでスマートな授業であったという事です。ICTを活用した授業では、新聞を用いた授業でのガサガサ音や、新聞が破れてしまった時の子どもたちの声、そして新聞を掲示する先生の後ろ姿に注目する一瞬の沈黙。また、新聞をのぞき込み小声で考えを述べ合う子どもたちのささやきなど、これまで学び合う授業を形成してきた、ある意味格好の悪い場面が全て削り落とされている、計画通りに進む予定調和的な授業となっているように感じた事でした。やはり、NIEの授業とは、教材としての新聞と、新聞に立ち向かう子どもたちや教員たちとの、一種の学びの格闘技的な側面が不可欠なのではないでしょうか。新聞の内容が中々理解できずに奮闘する子どもたちの焦りや、どのように子どもたちの学びの中に新聞を編み込んでいけるかと試行錯誤を繰り返す先生方の苦悩が、共に学び合う事を通して解消され、新聞というものの意義を協働で再確認していくプロセス自体が、とても重要な意味をもつと考えます。言い方を変えれば、新聞の紙やインクの香りが漂う、子どもたちと先生の真剣な対話が繰り返られる時間と空間の創造が、NIEのこれからに求められているという事ができると思います。

以上の点を見据えて、本実践報告書に示された、令和5年度の実践指定校のNIE充実に向けた実践を拝読いたしますと、まさに、今後のNIE教育の確かな羅針盤となりえる実践が群馬県では繰り返されている事が伝わって参ります。小学校6校、中学校2校、義務教育学校1校からなる令和5年度の実践校の全てが新聞と児童生徒を出合わせる空間づくりに多様な工夫を凝らしている事は言うまでもありません。報告書内に記載されたNIEコーナーの写真からは子どもたちの新聞に触れる姿が臉に浮かんで参ります。また、新聞ワークシートに取り組んだり、新聞を多様に用いた授業づくりに取り組んだり、今年はNIEに係る授業づくりへの先生方の熱い思いが特筆に値いすると言えるでしょう。そしてその授業づくりの中で、本物の新聞を切り抜いて模造紙等に貼ってスクラップにしたり、発表資料に使ったりと、まさしく新聞の香りが漂う新聞の本物と出合わせる方向性が強く打ちだされている事が素晴らしいと感じました。さらに、令和5年度は町ぐるみでNIEに取り組む千代田町や義務教育学校など、義務教育9年間を通したNIEへの取り組みは、NIEの新たな方向性を打ち出した新たな挑戦と言っても過言ではないと考えます。群馬県のNIEが今後も進化し続けるという確かな息吹を感じる、本実践報告書を是非お読みいただければと思います。

本報告書の作成にあたり、これまでご協力いただきました関係新聞各社をはじめ、実践に臨まれた各学校の先生方や児童生徒、そして保護者や地域の皆様方に、心よりお礼申し上げます。

今後も、新聞の香り漂う本物のNIEがより充実するためにも、本協議会の活動がより広く、より意義深くなることを願っております。

主体的・対話的に学ぶ児童の育成

～ NIEを通した思考力・表現力の育成～

安中市立後閑小学校

1はじめに

本校は群馬県安中市の北西に位置し、西に妙義山、浅間山を望む里山に囲まれた自然豊かな環境にある。学校の周囲は美しい田園風景が続き、裏には中世古城の城山（じょうやま）がそびえている。令和5年度の全児童数は45名の小規模校である。

本校の学校教育目標「心ゆたかに自ら学ぶたくましい児童の育成」を目指し、子供たちが考えた「ぽかぽか（みんな仲よく）きらきら（すすんで勉強）にこにこ（元気な子）を合い言葉に、児童一人一人を大切に、確かな成長につながる学校づくりに努めている。

令和5年に150周年を迎えた伝統校であるが、令和7年度に隣の新井市小学校と統合することが決まった。今年度は3つの好き「自分・友達・後閑」を大切にして「自分たちが幸せに。後閑が幸せに。」を合い言葉に掲げ、保護者・地域と連携した取り組みを行った。

2実践の概要

今年度の校内研修は児童が主体的・対話的に学び、思考力・表現力を育成する学習を充実させるためのICT活用を軸とした授業改善を前年度より継続して行った。令和7年度に本校の13倍以上の児童数がある新井市小学校と統合するにあたり教職員や保護者に調査したところ、児童に身に付けさせたい力として「自らの考えをもち発表する力」が特に身に付けさせたい力の一つとして挙げられた。

「自らの考えをもち発表する力の育成」はNIE実践でも1年目より目指している。そのため授業改善と合わせNIE1年目の取り組みを継続・発展させると共に、実践に関わる教職員を昨年度より増やすことを目指して、実践に取り組んだ。



写真1 しんぶんコーナー



写真2 バックナンバー置き場

3新聞の置き場と整理の方法

新聞は昨年に引き続き図書室に「しんぶんコーナー」を作った（写真1）。昨年度は、一般紙と週1回発行される子ども新聞を常設したが、今年度からPTAの予算で購入することがPTA総会で承認されたため、毎日発行される小学生新聞を置くことができるようになった。

また、一般紙などのバックナンバーは図書室内に1ヶ月分は見られようにし、教職員や児童が自由に使えるようにした（写真2）。さらに児童が興味をもちそうな新聞記事は、図書司書が切り抜いたもの



写真3 新聞記事の展示

を展示棚に置いて児童の目にとまりやすいようにした（写真3）。このように毎日発行される小学生新聞が置かれていることや図書司書の展示の工夫により「しんぶんコーナー」に興味をもち、新聞に目を通す児童が増えた。

4実践の内容

1)新聞への投稿

昨年同様、新聞投稿にチャレンジすることを呼びかけた。掲載されたものは切り抜き、児童全員が見られる場所に掲示した（写真4）。

昨年度、新聞投稿を国語の授業の中で定期的に取り組み、児童の表現力が向上したことを実感した特別支援学級担任は今年度も児童の作文を投稿し続けた。1学期は担任が児童の考えを聞き出し、作文を添削していたが、ある児童は3学期には自分の力で表現豊かな文を作ることができるところまで成長した。他の児童も新聞に載ることが意欲につながり、何度もチャレンジすることができた。

6年担任は国語の「思い出を言葉に」という単元で、書いた文章を新聞に投稿することをゴールに学習を進めた。この単元では伝えたいことを明確にして書き、読み合うことが単元を通した目当てとなっていた。新聞に投稿するというゴールを目指し、一人一人の児童が意欲的に表現を工夫して書き、作品を読み合いながら推敲することができた。

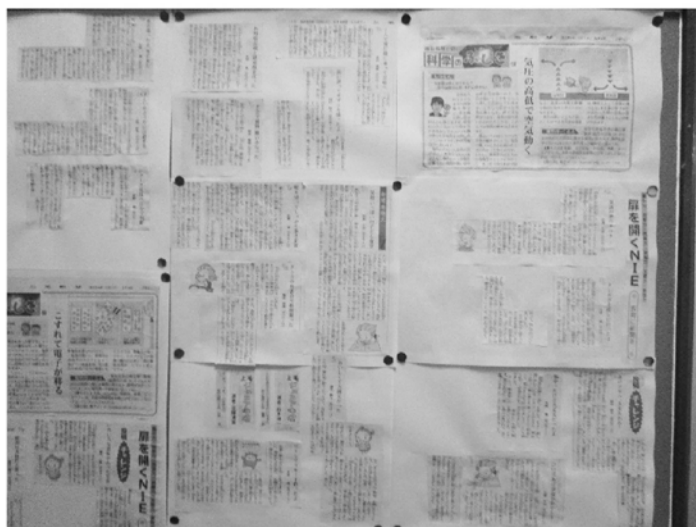


写真4 掲載された投稿を掲示

2)5年の教科横断的な実践

昨年度の5年生は国語の授業と社会科での出前授業でN I Eの実践を行ったが、今年度の5年生は1年間かけて新聞にふれあう機会を用意し、教科横断的に実践を行った。

①日直のスピーチ

日直は、自分が気になったニュースを「朝の会」で発表した。5年児童数は4名なので、頻繁に日直がまわってくる。初めは、小見出しをそのまま読んでしまう紹介が多かったが、スピーチの回数が重なるにつれて要約してスピーチできる場面も現れた。児童によって関心をもつジャンルが違いお互いを理解することにもつながった。

②国語 単元名「新聞を読もう」

児童数分の地方紙(上毛新聞)を購入し、新聞の紙面について学習した。次に同日に発行された全国紙と見比べる学習を行った（写真5）。同じ話題でも記事の内容が異なることに児童は気付き、情報の収集法を考えるきっかけとなった。



写真5 地方紙と全国紙を見比べる

③社会「自動車をつくる工業」

教科書などの資料や、社会科見学に行つてわかつたことを壁新聞にまとめることを単元のゴールとして学習に取り組んだ。国語の学習で新聞の紙面について学習した内容を生かして、壁新聞づくりを行った（写真6）。

④出前授業

1月15日に上毛新聞社編集局N I E・N I B担当記者による出前授業を、社会科「情報化した社会と産業の発展」の学習として行った（写真7）。

取材現場で撮影した写真を見せてもらいながら、取材する記者の視点についての話であつた。またフェイクニュースについて、熊本地震の時に流されたデマの話聞き、SNSで流される話題は全部正しいわけではないことを知つて児童は情報源を調べることや、軽い気持ちでリツイートしないことの大切さを知ることができた。

さらに出前授業の感想を新聞に投稿し、投稿に載つた文章と自分の書いた文章の違いに児童自身で気付くことができた。担任が掲載される文章は新聞社で十分校正校閲された文章であることを伝え、自分の書いた文章と投稿された文章を比較し確認するという学習につなげることができた（写真8）。社会科として行った出前授業であつたが、国語で求められる文章の推敲の学習にもつながる教科横断的な学びを展開することができた。

3)図書室の取り組み

昨年度は図書集会で新聞について紹介した。今年度は図書主任と図書司書が協力して「新聞チャレンジ【しんぶんってオモシロイ】」とタ



写真6 壁新聞（自動車工場新聞）



写真7 新聞記者による出前授業

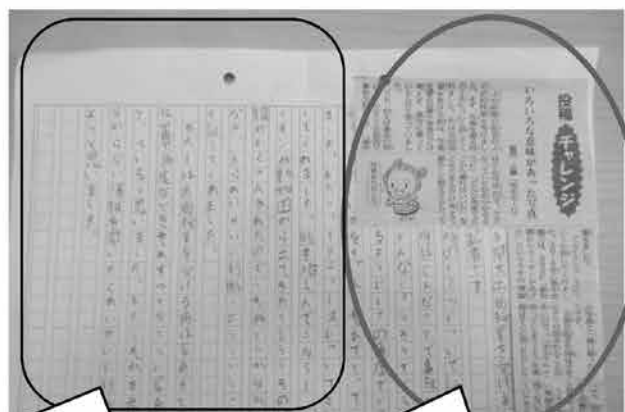


写真8 自分が書いたものと掲載された文章を比較する

イトルをつけ、校内で興味をもった記事を切り抜き用紙に貼って感想をつけることをチラシで呼びかけた（写真9）。また、エコバッグに興味をもった児童には作り方をまとめた用紙を渡し、親子でエコバッグを作ることを勧めた。

4)他校への拡がり

図書室に所蔵してあった新聞紙を使ったエコバッグづくりを図書司書が今年も継続的に行った（写真10）。夏休みにはALTも含めた職員で、エコバッグづくり講習会を行った。そのエコバッグを使って隣の学校にもものを届けたところ、5年担任がそのエコバッグに興味をもち、新聞エコバッグづくりを習いに本校まで出向いた。隣の学校では、6年生を送る会で5年生が作成したものをを入れる袋としてエコバッグを作り、SDGsやリサイクルの学習につなげられるよう5年生全員で取り組むとのことであった。

新聞は読んだ後にも、有効利用できる輪が図書司書の取り組みによって広がった。

4実践の感想と今後の課題

今年度は新聞コーナーで毎日発行される小学生新聞や一般紙を常設した事で、児童は昨年度以上に新聞に対して感心をもつことができた。

特に5年生は教科横断的な取り組みを行い、社会科の学習として投稿した自分の文章が校正されていることを自分たちで気づき、文章を推敲するという国語の学習内容につなげることができた。

また新聞の投稿が掲載されることは、児童の自己肯定感の高まりにつながった。自分の文章を読んだ家族や地域の方々に声をかけられるということが児童の承認欲求を満たし、自己肯定感の高まりにつながったものと思われる。今年度は繰り返して投稿にチャレンジする児童も現れ、表現力の向上にもつながった。

また、NIEの効果を実感し、主体的に実践に取り組む教職員が増えたことは、2年間継続した一番の成果だと考える。

課題としては、新聞を読み考えるところまでいかなかったことである。そこまで取り組むには、新聞を読む環境を作ることが必要である。この2年間で、新聞が図書室に常設され児童が興味をもつところまでになったので、次は新聞を読み、感想をもち発表できるところまで育成することを考えていきたい。

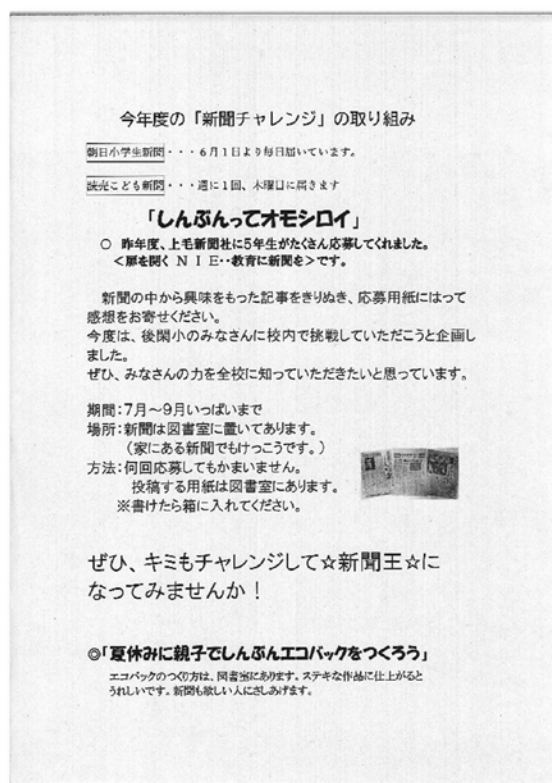


写真9 図書室で配ったチラシ



写真10 新聞で作ったエコバッグ

2023年度 NIE活動実践報告書

板倉町立西小学校

渥美 愛花

1. はじめに

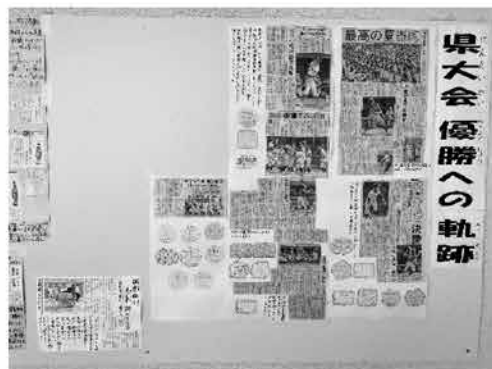
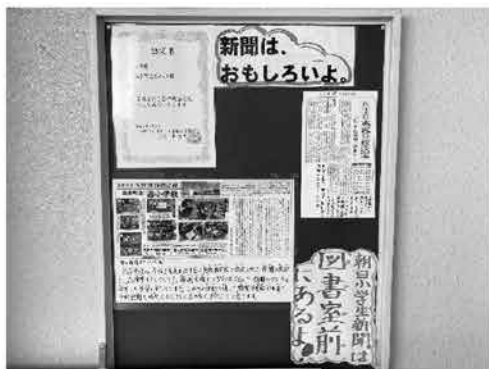
本校は、群馬県南東部に位置する小学校です。上毛かるた「つる舞う形の群馬県」でいうところのツルの嘴に位置します。北に渡良瀬川、南に利根川があります。また、周囲を栃木県、茨城県、埼玉県に囲まれています。自然に囲まれた環境の下、全校児童304名が元気に学校生活を送っています。

2. 実践のテーマ

本校は、NIE推進校2年目となり、昨年度の反省を生かして全校で取り組むことができるようにしていきたいと考えました。また、本校の校内研修のテーマである「自ら学びを深める児童－対話が生まれる指導の工夫を通して－」と連携し、児童が自分の意見を持ち、話し合うことができる環境作りの一環としてNIEを取り入れたいと考えました。そこで、今年度のNIE実践のテーマを「新聞を活用して社会の出来事に対する関心を高め、対話を通して自分の考えを深める」とし、主に新聞ワークシートを活用して実践を行いました。

3. 新聞の置き場所と整理の方法

本校では、職員玄関前に新聞コーナーを作り、近くにあるプレイルームで新聞の切り抜き作業が行えるようにしました。児童が活躍した新聞の切り抜きを掲示するなど、児童が興味を引くような工夫も取り入れました。こども新聞は図書室前に置いて、児童が目に触れやすいようにしました。(写真下)



4. 実践の内容

(1) 全学年の実践

【新聞ワークシートの活用】

新聞に慣れ親しむこと、社会的事象に関心をもって自分の意見をもつことを目的として、新聞社で出されている新聞ワークシートを活用しました。新聞ワークシートには、季節ごとの内容があり、児童の興味を引きました。家庭で新聞をとっていない児童にとっても、興味の湧く内容になっていました。

本校では、毎週金曜日の帯学習の時間（10分）を活用し、週に1回、新聞ワークシートに取り組みました。学年の実態に応じて、紙で配布したり、タブレット端末上で活用したりしました。特に、タブレット上で情報のやりとりを行うことで、お互いの意見を共有しやすくなり、話し合い活動にもつなげることができました。新聞ワークシートは、ブロックごとに NIE 担当を設けて、定期的にタブレットに保存・共有し、その中から担任が学級の実態に合ったワークシートを選んで指導することができるようになりました。

○4年生での実践例

NIE ワークシートから、「ぼかぼか」「すくすく」のような繰り返される言葉（畳語）について知り、国語辞典やタブレットを使ってグループで協力して畳語調べを行いました。「こんな言葉はあるかな?」「こういう意味もあるみたい!」など、児童同士が自然と話し合いながら言葉集めをすることができました。(写真下)

読者新聞
ワークシート活用

2023年 5月 19日

ぼかぼか ヒナすくすく

東京都豊島区の目白庭園
にある動物のヒナが姿を
見せています。

ぼかぼか ヒナすくすく
目白庭園にカルガモ親子

池を泳ぐカルガモの親子（東京・豊島区）
（2023年5月2日 読者新聞東京版より）

※先生やおうちの人といっしょに読みましょう。

【1】写真の動物の名前を、カタカナ4字で書きましょう。

【2】「ぼかぼか」「すくすく」のようなことばを探して、書きましょう。

読者新聞 ネットワーク
教育関連情報 | kyokai.yomiuri.co.jp



（２）各学年の実践

【５年：総合的な学習の時間での活用】

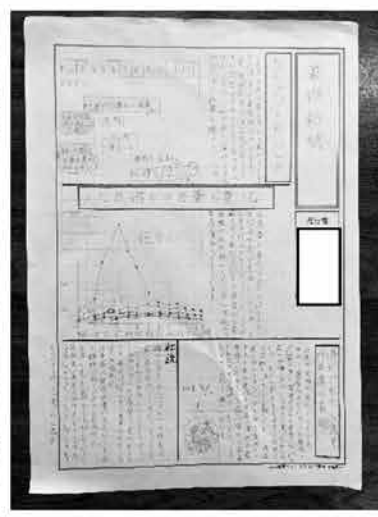
総合的な学習の時間では、SDGsについて理解を深めるために、１学期から調べ学習を行いました。２学期からは、自分の興味ある目標に関する新聞記事を集め、記事を読んで分かったこと、感じたことを模造紙にまとめました。新聞を読むことで、日本や世界の現状や、目標を達成するための取り組みについて具体的に知り、考えを深めることができました。

（写真下）



【５、６年：社会科での活用】

５、６年生の社会科の学習では、各単元のまとめとして新聞作りを行いました。作成した新聞を廊下に掲示し、児童同士も読み合うことができました。回数を重ねるごとに、読みやすい新聞にするにはどうすればよいかを考えながら作成することができました。（写真下）



【３年：社会科見学新聞作り】

社会科の「安全なくらしー火事をふせぐー」の学習では、町の消防署見学に行きました。見学して学んだこと、感じたことなどを基に、新聞の形式にまとめました。見出しを付けたり、絵を添えたりするなどの工夫をしながら作成することができました。（写真右ページ上）



5. 成果と課題

【成果】

- ・児童が新聞を身近に感じることができるようになった。
- ・新聞の記事を読み、自分の考えを書いたり、発表したりすることができるようになった。
- ・校内研修と連携して、学校全体で取り組むことができた。
- ・児童が社会的事象に関心をもって、意欲的に取り組む姿が見られた。
- ・児童の中には、自主学习等で新聞を活用し、更なる学びにつなげている様子も見られた。

(写真下)



【課題】

- ・家庭で新聞をとっている児童が少ない⇒学校での環境整備が不可欠。
- ・様々な学年で取り組めるように新聞ワークシートを活用したが、学年の実態に合わせて内容を精選することが必要。
- ・各教科とのつながりを考えながら、様々な場面で新聞を活用できるようにしていきたい。
- ・週に1回の帯学習(10分)だけでは明らかな学習効果として表れない部分もあるので、継続的に行うことが必要。

新聞を活用して学ぶ児童の育成

－新聞に親しみ、活用する実践を通して－

邑楽町立長柄小学校

栗原 秀文

1. はじめに

本校の創立は明治19年である。群馬県第237学区邑楽第19尋常小学校としてスタートし、今年度で137年目を迎えた。令和5年度は、新入生46名を加えた児童数341名、14学級でスタートした。

本校の教育目標は、「心身ともに健康で、学習に意欲的に取り組む、心豊かな長柄っ子を育てる」ことである。具体的には「仲良くする子」「がんばり抜く子」「笑顔で元気な子」の育成を目指している。今年度も昨年度に引き続き、「わくわくする学校づくり」をテーマとして、子どもたちが共に元気に学び、元気に遊ぶ、笑顔がたくさん溢れる学校づくりを推進している。なお、子どもたちの学習をより一層充実させるため、昨年度よりNIE実践指定校となって様々な取り組みを進めてきた。

2. 実践の実際

(1) 購読計画と整理方法

①購読計画

10～1月 読売新聞、東京新聞、産経新聞、上毛新聞、朝日ウィークリー
日経MJ、毎日小学生新聞

②置き場所と整理方法



(2) 新聞コーナーの設置

2階の図書室の廊下に、新聞コーナーを設置した。

(左上写真) 新聞クリップを使用し、通りかかった児童や教員が随時、新聞を手にとって利用できるようにした。

また、廊下に新聞閲覧台(右上写真)を置き、その場で児童が読めるよう工夫した。

(3) 新聞の整理

第二図書室(第一図書室の隣り)に新聞を整理する棚を設け(左写真)、利用したい時に利用したい

時の新聞が探せるように工夫した。

3. 実践の内容

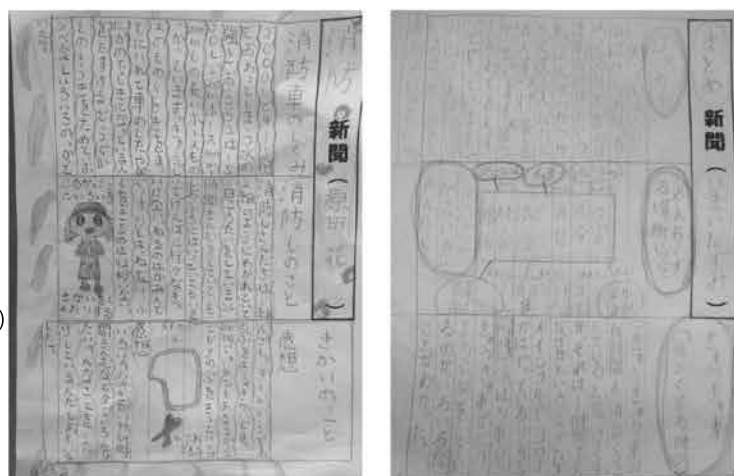
(1) 新聞記事への感想文を書く実践(4・5・6年)

本校では昨年度から4年生以上の児童を対象に、日常の出来事や学校行事の体験をまとめたり、読んだ新聞記事の感想を500字以内でまとめたりする学習に取り組んでいる。児童の書いた作文や感想文は新聞社に投稿し、掲載された文章は廊下に掲示し(右写真)通る児童等がいつでも読めるように工夫した。



(2) 3年社会「安全な暮らしを守る」の実践

本単元では、消防署や警察署の仕事の様子、またそれに付随する設備、地域の取り組みなど自分たちの暮らしが様々な人たちの努力により守られていることを学習する。消防署の見学を通して、消防署の仕組みや初めて知ったこと、授業で気がついたことなどをまとめとして、各自で新聞にする学習を行った。(右写真)



(3) 4年国語「新聞を作ろう」の実践

本校の4年生は総合的な学習の時間に、自分たちが住んでいる町の地名や歴史について調べる活動を行っている。ここでは総合的な学習の時間と国語科の学習を関連させ、調べたことを新聞に書いて分かりやすく伝える活動を行った。

国語科の学習では、まず図書室にある新聞を見ながら、書かれている内容や読み手に分かりやすく伝えるための工夫等を調べた。次に、教科書を使って新聞の一面には新聞名や発行日、発行者が書かれているほか、見出しを読むだけで何の記事かわかるようになっていないこと、文字だけでなく図や写真もあってわかりやすいこと等を確認した。

このような国語科の学習を総合的な学習の時間につなげ、調べたことや分かった事実などをもとに新聞の割り付けを考えたり分担して記事を書いたりしながらグループで壁新聞にまとめていった。(右写真)



(4) 4年「ゴミのゆくえ」「世界とつながる群馬県」の実践

①「ゴミのゆくえ」の実践

本單元では廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、人々の協力などに着目し、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめる学習を行った。



具体的には「分別して出され、収集されたゴミは、どのようにして処理されるのだろうか」という課題のもとクリーンセンターを見学し、分かったことを各自で新聞にまとめる学習を行った。(上写真)

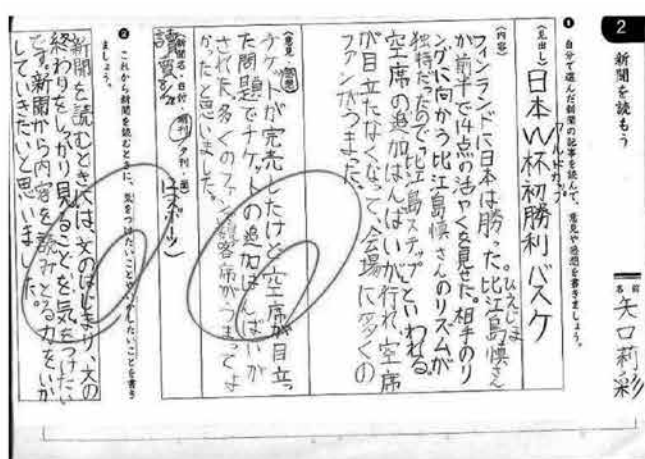
②「世界とつながる群馬県」の実践

本單元では、群馬県と外国との結びつきについて聞き取り調査をしたり、資料で調べたりしながら、群馬県とつながりのある国を調べてまとめる学習を行った。児童は図書室の本から資料を探したり、本稿のALT からインタビューをしたりしてつながりのある国について調べ、新聞にまとめる学習を行った。(右写真)

ブラジル連邦共和国	新聞	品川 美鈴
ブラジルってどんな国?	ブラジルの面積は、日本よりも約5倍大きい。人口は約2億人。首都はブラジリア。面積は、日本の22.5倍。人口は約2億人。ブラジルの主要な都市には、サンパウロ、リオデジャネイロ、ブラジリアなどがある。ブラジルの主要な産業には、農業、製鉄業、自動車工業などがある。ブラジルの主要なスポーツは、サッカーである。ブラジルの主要な言語は、ポルトガル語である。	感想 私は、ブラジルについて調べたことで、ブラジルの国土の広大さや、人口の多さ、そして、サッカーが盛んな国であることが分かった。また、ブラジルの主要な産業や言語についても知ることができた。ブラジルの文化や生活についても興味がある。ブラジルの主要な都市や観光地についても調べたい。

(5) 5年国語「新聞を読もう」の実践

全国紙の読売新聞と、地方紙の上毛新聞、場合によってはスポーツ紙の同じ記事と比較し、共通する構成要素(見出し・リード文・本文等)を確認した。その後、各自で新聞を読んで気になる記事を見つけ、それ



に対する自分の考えや感想をまとめる学習を行った。(右写真)

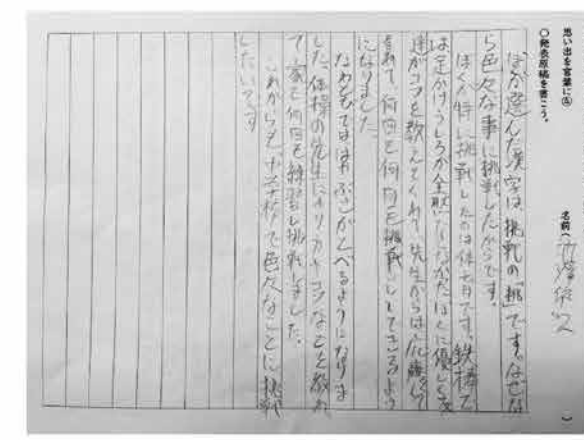
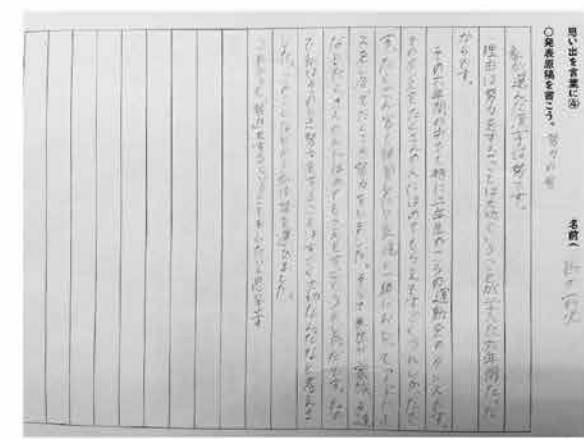
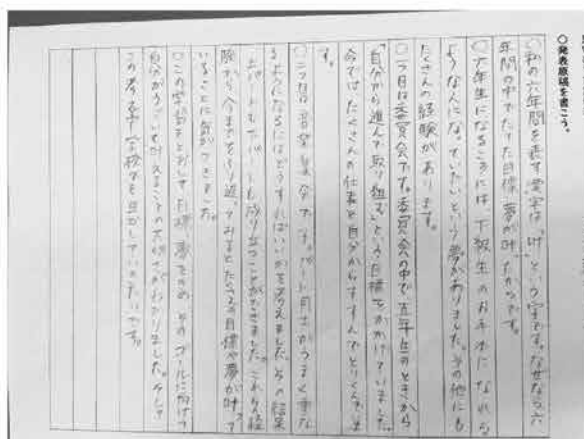
(6) 6年国語「大切にしたい言葉」の実践

6年の国語科の単元に「思い出を言葉に」（「伝えたいことを明確にして書き、読み合おう」というのがある。ここでは、小学校での6年間を振り返って、6年間を表す漢字を一つ選び、その漢字と、それにまつわる経験について思い出し発表する学習を行った。

実践では、はじめに上毛新聞の「投稿チャレンジ」に掲載された県内小学生の「今年を表す漢字」に関する投稿文をモデルとして示し、書き方のポイントを考える学習を行った。

児童は、はじめに選んだ漢字とその意味を示し、次にその言葉を選んだ理由を記述していること、最後にその言葉に関連した出来事やそれを通して考えたことが書かれていることに気づいた。

その後、児童は気づいたポイントをもとに書く材料をワークシートに集め、文章を記述していった。（右写真）



4. 実践のまとめ

- ・ 日常生活における所感や新聞記事に対する意見等が新聞に掲載されることで、表現することへの子どもたちの自信や意欲を高めることにつながった。
- ・ 各教科等の学習の様々な場面で新聞を学習材として利用したり、学習したことを新聞にまとめたりする活動に取り組んできた。これらの活動を通して、子どもたちは新聞を一層身近なものと感じてきている。

教育活動を充実させるための手段としてのNIEの活用

館林市立第二小学校

三木 貴博

1 はじめに

本校は、群馬県東部・館林市の中心部に位置する、児童数281名、13学級の小学校である。令和3年度から日本新聞協会のNIE実践指定校となり、3年目の取り組みとなった。過去2年間は、教育活動を充実させる手段として、新聞を通した豊かな体験活動とそれらを基にした表現活動の推進に力を入れてきた。その結果、全国学力学習状況調査から、本校は以下のことが明らかになった。

- ・自分には、良いところがあると思う児童が多い。
- ・友達関係に満足している児童が多い。
- ・国語・算数の学習やICT機器の活用が、将来、社会に出たときに役に立つと思っている児童が少ない。
- ・限られた時間の中で、感想文・提案文・ポスター・説明書・新聞・表やグラフなど、様々な資料を読み込み、そこから必要な情報を選択していく力が十分でない。

3年目の実践では、落ち着いて学校生活を送る児童にとって、上記の課題を改善できるよう、無理のない範囲でできる時間と量を見通しながら、教育活動が充実するよう新聞活用に取り組んだ。

2 実践の概要・成果

(1) 新聞の置き場所と整理の方法について

購読期間：9月1日～2月29日までの6か月間。長期休業期間は除く。

朝日、毎日、読賣、日経、東京、産経、上毛新聞。

置き場：毎日届く朝刊3～4紙は、高学年の教室前廊下に机を置き、いつでも誰でも自由に新聞を手にして読めるようにする。「**下写真参照**」

ルビ入りの子ども新聞3紙は、図書室の貸し出しカウンター前のブックトラックに置き、図書室で過ごす時間は新聞を手にして読めるようにし、バックナンバーも管理する。

管理：職員が毎朝掲示する。

複写：児童が読んで気になった記事は複写して渡し、新聞スクラップ作成への手助けをする。

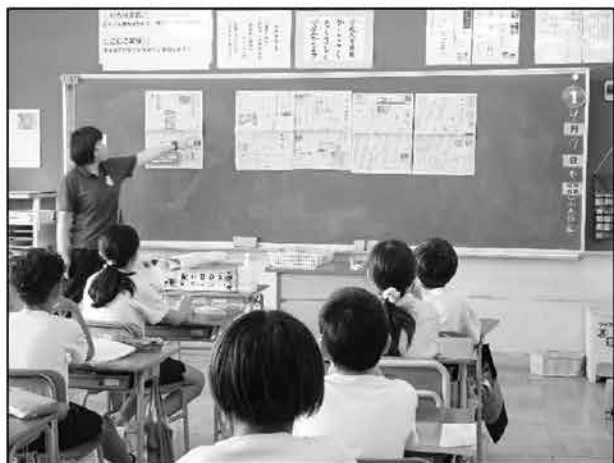


その結果、高学年の教室前廊下では、日常生活の中で気になったニュース（国内・海外情勢、政治・経済・スポーツに関すること等）について、さまざまな新聞を手にする児童がいた。また、秋の社会科見学「国会」を通して、新聞が身近なものとして捉える児童が多くなった。さらに、図書室では、貸し出しカウンターの前に置かれた最新版を、常時楽しみにしている児童の姿が見られた。

（２）授業での活用について

５年生の国語科「新聞を読もう」の学習では、新聞記事の読み方や複数の新聞に書かれている記事を読み比べる活動を通して、どんな違いがあるのかについて考えた。その結果、全国紙と地方紙では、同じ出来事であっても記事の内容や見出しに大きな違いがあること。地方紙は、人の名前やインタビューが多く、地域の細かな情報が詳しく掲載されていることが分かった。「**下写真参照**」

また、５年生の国語科「グラフや表を用いて書こう」の学習では、新聞に掲載されている統計資料を参考をすることを通して、自分の意見を効果的に表現することについて学習した。新聞には、記事に即した図表や写真が掲載されており、読み手はそれらを通して書き手の意見をより分かりやすく理解できることが分かった。以上のことから、「新聞」を通して教育活動の充実を図ることができた。



（３）新聞記者による出前授業について

本校では、子どもたちの学習をより充実させるために、専門家の力を活用する出前授業を積極的に取り入れ、継続している。今回も社会科見学に先立って、見学先について豊富な取材資料等を持っている新聞記者を招き、見学のポイント、メモや質問の仕方、見学のまとめ方などの授業を行った。「**下写真参照**」



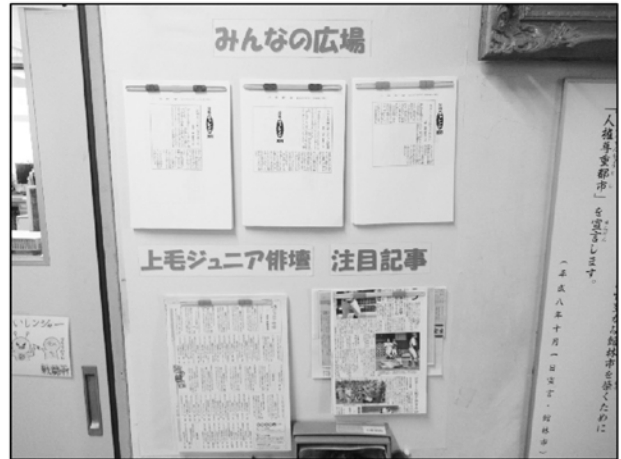
新聞記者による出前授業を通して、校外学習や社会科見学では、見学の視点を明確にしてメモを取ったり、質問を投げかけたりと活動が充実した。また、学習や見学後の振り返りは、I C T機器を用いて的確に要点をまとめながら行い、児童にとっては大変充実したものとなった。

(4) 新聞への投稿・掲載について

本校では、「全校俳句作り」に継続して取り組み、提出された俳句は、校長がすべて上毛新聞「上毛ジュニア俳壇」に投稿してきた。時には上毛新聞「朝の一句」に顔写真とともに掲載されることもあった。また、行事や体験活動後の作文、課題作文に取り組む活動を通して、書くことの充実を図ってきた。作文も校長が上毛新聞に投稿し、「みんなのひろば」に掲載されることもあった。

今回は主体性を伸ばすため、新聞への投稿は自由選択とし、自主学習の1つに位置づけた。投稿用紙は2箇所を設置し（高学年の教室前廊下・校長室前）、児童が用紙を手にとって自由に持って行けるようにした。また投稿や活躍が載った記事は、校長室前の廊下に掲示し、誰でも目にすることができるようにした。「下写真参照」

その結果、俳句や作文の投稿に無理のない範囲で児童は取り組むようになった。やらされてやるのではなく、主体的に取り組む児童の姿が見られた。



(5) 新聞ワークシートの活用について

本校の課題は、「限られた時間の中で、感想文・提案文・ポスター・説明書・新聞・表やグラフなど、様々な資料を読み込み、そこから必要な情報を選択していく力が十分でないこと」である。そのため、上毛新聞が作成している「新聞ワークシート」を隔週で、普段の作文課題と並行して5.6年生に課し、意見文を書くことに取り組んだ。「右写真参照」



「新聞ワークシート」は、図表や複数の情報が並ぶ幅広い内容の新聞記事が用いられている。このため、社会の様子や情勢を簡単に把握することができた。本活動を通して、初見の文章や図表を総合的に読み取ってから、自分の意見を意欲的に書こうとする児童の姿が見られた。また教員にとって、児童の実態に即したワークシートが見つけやすかった。さらに、新聞を教育活動に利用する際の負担軽減にもつながった。

（６）防災教育への新聞活用

文章の読解や切り抜き、家庭学習だけに新聞を用いるのはもったいない。１１月の学校公開において、発達段階に応じて全校一斉で「防災教育」の学習を行った。３年生は市の安全安心課の方を講師に招き、普段から手にする新聞紙を用いて防災グッズ（新聞スリッパ、新聞食器）製作体験と活用の仕方を保護者と一緒に学習し、実際に使用してみた。「**下写真参照**」



上履きを持たずに避難所へ行っても、１枚の新聞紙で簡単にスリッパが折れること。容器が割れて使えなくても、新聞紙とビニール袋で食器が作れて活用できることを、体験を通して学習することができた。作成したスリッパを皆で履いたり、食器に水を注いで頑丈さを確認したりして、災害時に役立てようとする態度を育むことができた。今回の取組を通して、NIE（Newspaper In Education）「教育に新聞を」を、NIDPE（Newspaper In Disaster Prevention Education）「防災教育に新聞を」に発展させることができた。

奇しくも令和６年の元日、能登半島では巨大地震が発生し、多くの方が自宅を失い、避難所での生活を余儀なくされた。災害はいつどこで起こるか分からない。今回身に付けた新聞紙での防災対応力、製作活用力が、将来起こりうる災害時に役立つだろうと感じた。

３ 今後の課題

- ・多忙な現場の教師たちにどのように広め、一人でも多くの教師が、教育活動を充実させるための手段として新聞を活用できるように、効果を実感できる地道な取り組みを続けていく。
- ・無理のない範囲でできる時間と量を見通しながら、新聞を各教科や道徳等で活用した授業実践や校内研修につなげていく。
- ・スマートフォンが普及し、新聞購読している家庭が極端に少なくなっている。新聞を手にとったり読んだりする習慣がほとんどない児童が多いため、新聞が気軽に学校で読める予算と環境を整えていく。

「読解力を身につけた児童の育成」を目指すためのNIEの活用

～新聞を活用して語彙力、読解力、表現力を向上させよう～

千代田町立東小学校

石井

智

1 はじめに

本校は、群馬県の南東部、鶴舞う形の首の部分に位置する「利根川中流域の水と緑のまち」千代田町の東部に位置しており、全校児童134名8学級の小学校である。児童の読解力向上のために、町内の2小学校1中学校の共通の取り組みとして、NIE実践校として、町を挙げて令和5年度より取り組んでいる。

2 実践の概要

本校の研修テーマである「読解力を身につけた児童の育成」を目指す一環として、新聞を授業に有効的に取り入れ、新聞に触れる機会を増やし、新聞記事を読む場面を設定することで、語彙力や読解力、表現力の育成につなげようと考えた。

具体的な取り組みは次の3点である。

- ①よむ YOMU ワークシートの活用。
- ②新聞に触れられる環境の整備。
- ③新聞を授業に取り入れた実践の校内での公開。



《図書室内の新聞コーナー》

3 新聞の置き場所と整理の方法

(1) 新聞コーナーの設置

本校児童は図書室の利用が多いので、図書室内に新聞コーナーを設置した。各社ごとに棚を変えて2ヶ月分を置いておき、誰でも自由に閲覧できるようにした。また、バックナンバーについては、図書室内に保管し、職員が授業等で活用できるようにした。

(2) 子ども新聞コーナーの設置

本校は低学年玄関の所に、備え付けのベンチがあるスペースがある。そのテーブルに2社の子ども新聞を置き、自由に閲覧できるようにした。



《子ども新聞コーナー》

4 実践の内容

【よむ YOMU ワークシートの活用】

4～6年生は有料版のワークシートを使った。具体的には、毎週火曜日の宿題として児童に課し、翌水曜日の朝学習（朝行事の時間）に答え合わせと解説をするようにした。1～3年生については、無料版のワークシートを学級の実態に応じて活用している。また、ワークシートを保存するためのファイルを全校児童に配付し、学びの足跡が残るようにした。

【新聞を授業に取り入れた実践の校内での公開】

本校では「1人3実践1公開」として、新聞を授業に取り入れた実践とその公開を行い、互いに学び合えるようにしている。（概要は次ページ以降の各学年の取組を参照）

5 実践の感想と今後の課題

実践前は児童が新聞に触れる機会は少なかったが、通路や図書室に新聞が複数置かれることで、手に取って読む機会を得ることができた。また、よむ YOMU ワークシートを活用することで、少しずつではあるが、読解力の向上が図られてきているように感じる。

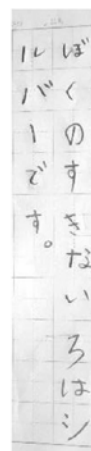
今後は新聞の活用による、語彙力や表現力の向上が図られるよう、国語に限らず多角的に新聞を活用できるような実践を積み重ねていきたい。

6 各学年の取り組み

【1年国語】

「身の回りにあるカタカナを進んで探し、見つけた語を正しく読んだり、書いたりすることができる」というねらいに向けて、新聞を活用して授業を行った。新聞を活用することで、元々知っていた言葉だけでなく、新たに知る言葉も多くあり、語彙力向上につながるのではないだろうかと考えた。授業の流れは以下のとおりである。

- ①「かたかなをみつけよう（光村図書）」の唱え歌を音読し、めあてを確認する。
- ②教科書の挿絵から片仮名の言葉を見つけて、ノートに書く。
- ③新聞の中から片仮名で書かれている言葉を見つけ、赤で丸を付ける。
- ④丸を付けた言葉をノートに正しく書き写す。
- ⑤見つけた片仮名の中から1つ（～2つ）選び、文を作る。
- ⑥書いた文を友達と読み合う。
- ⑦学習を振り返る。（本や図鑑、広告等を紹介し、今後も片仮名を見つける活動を継続できるように促す）



児童が作った文

新聞記事は、子ども新聞から児童の興味がありそうなもの（動物、スポーツ、UFO等）を何種類か取り上げ、自分で選択させた。新聞を読むことに慣れていないため、行をまたいでの言葉を正しく書き写せない児童もいたが、個別指導で対応しながら全員が新聞から言葉を見つけ、文作りをすることができた。



【2年図工】

ダイナミックな発想で表現し、友達と一緒に楽しく活動を行うために新聞を活用して授業を行った。

新聞紙を手で裂いたり、はさみで切ったりして、模造紙3枚分の自分よりも大きな画面に向かって活動を展開することで、ダイナミックな発想を生み出し、様々な表現し、想像を広げてマイタウン作りができるのではないだろうかと思った。

○1・2時間目 「自分人形」の製作

主に新聞紙・紙皿を材料として自分人形を作製した。個性豊かなかわいらしい「自分人形」が出来上がった。

○3・4校時 建設隊になってマイタウン作り

4～5人の班に分かれ3枚の模造紙に新聞紙で道を作ったり、まちをクレヨンで描いたりした。活動を進めていくと子供たちの発想が広がり、クレヨンでまちを描くだけでなく、新聞から見つけた写真や文字、イラストなどを切り抜いてまちを構成したり、新聞で立体の信号機や乗り物などを作製しはじめ、マイタウンが平面から立体へと広がっていった。その後、自分人形を利用して出来上がったまちを探検した。自分人形のおかげで、ごっこ遊びのように友達とコミュニケーションを取り楽しんでいた。



【3年国語】

「ちいちゃんのかげおくり」の平行読書として、戦争・平和に関する新聞記事を読ませた。本単元は戦争に関する初の読み物であり、児童にとって「戦争」は縁遠いことである。そこで、戦争について書かれた絵本などを事前に読むことで、物語の設定（時代背景、状況、用語など）に触れさせ、物語の舞台を想像しやすさる必要がある。さらに、今年発行の新聞を国語や朝学習などの時間に読ませ、戦争・平和に関する新聞記事を見つけさせた。そのことにより、戦争は遠い昔のことではなく、現代もその傷跡が残っていることをつかませた。



【4年国語】

「つながりに気をつけよう」の単元において、新聞記事を活用し、読みやすく、分かりやすい文章とはどんなものなのかを考えさせ、自身が書く文章にいかしていけるようにしたいと考えた。授業の流れは以下のとおりである。

- ① 新聞を読み、分かりやすいと思った文章に線を引き、どこがどのように分かりやすいのかを記録させる。
- ② 線を引いたところの工夫について、学習班の中で互いに発表し、共有する。
- ③ 各班の内容を、全体で共有し、ポイントをまとめる。
 - ・主語・述語が対応している
 - ・何を修飾しているのか分かりやすく（読点で区切ったり、言葉の入れ替えをしたりする）
 - ・一文が長くない工夫
- ④ 本時の振り返りをする。

推敲された新聞記事を活用することで、児童は、読みやすさや分かりやすさを感じ取ることができ、その理由について班や全体で話し合うことで上記3つのポイントに気付くことができた。また、小学生新聞を活用することで、普段あまり新聞に馴染みがない児童も、関心をもって取り組むことができた。本時で学習した3つのポイントは、今後、意図的にいかせる機会をつくり、活用できるようにしていきたい。



タブレットを使って、新聞記事を読んでいる様子

【5年国語】

同じ出来事を扱った新聞でも、新聞社によって扱う内容が違っていることを理解するために新聞を活用した授業を実践した。

まず、事前に同じ出来事を扱った新聞を4種類用意して児童に選ばせ、新聞を読んで伝えたい内容が書かれているところに線を引かせた。次に、同じ新聞記事どうしでグループを作り、自分が線を引いたところを発表して、それぞれの新聞の伝えたい内容をまとめた。更に、4つの記事どうしでグループを作り、それぞれの記事の内容を発表した。そして、共通点や相違点を共有ノートにまとめ、それをもとに気付いたことを話し合った。



【6年国語】

考えたことを整理して、相手に伝わりやすい文章を書くことができるようになるために、同世代の児童が書いた投稿作文を参考にした。

作文のテーマは「冬の楽しみ」とし、文章構成で視点に置いたのは、「はじめ」の書き方である。「はじめ」には、どの作文にも作者の考えの見通しが書かれているため、その点に着目し、「はじめ」に、読者に見通しをつかませるための工夫することを指導の重点とした。以下は、主活動の流れである。



①ウェビングマップ（紙ノート）を使って冬についての思いや考えを出す。

・理由や根拠←体験・経験

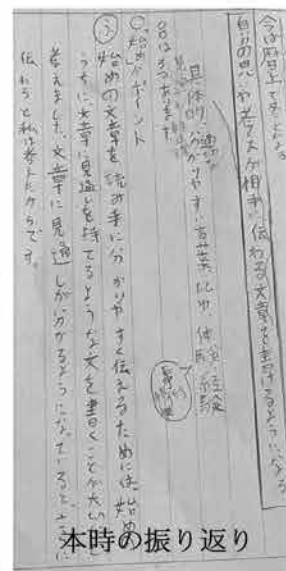
②新聞を読む。

・いくつかの投稿作文を読み、参考にしたい「はじめ」に赤丸を付ける。

③どのような「はじめ」を参考にしたいのか発表する。

④投稿作文を参考にして、自分の思いや考えが伝わりやすい文章を書く。

⑤読み合う



「新聞に慣れ、親しむ」ための児童の育成

～「NIEタイム」「校内研修一人一実践授業」を通して～

千代田町立西小学校

木村智津子

1 はじめに

令和5年度より、千代田町立西小学校はNIE実践指定校の指定を受けた。初年度である今年度は、児童が「新聞に慣れ、親しむ」ことを目標に実践を始めた。

全職員・全児童で取り組む朝行事に位置づけた「NIEタイム」、「NIEを取り入れた一人一実践授業」の二本を柱に取り組んだ。

2 実践の概要

(1) 全校児童に向けた「NIEガイダンス」の実施

「NIEについて知ろう」と題して、「本校の取り組み」「NIEの有用性」などを児童に理解してもらうために、NIE担当がgoogleスライドを作成し、ガイダンスを実施した。以下がスライド資料の一部である。

NIEについて知ろう!  千代田町立西小学校	新聞のよいところって? ①情報(じょうほう)をたくさん知ることができる ②くわしい説明(せつめい)があり、 ニュースの背景(はいけい)がよくわかる。 ③手元(てもと)にあるため、いつでも読み返すことができる。 ④インターネットの情報はまちがいがあってもあるが、 新聞の情報は、まちがいがなく、信頼(しんらい)できるものである。	千代田西小学校では... ①NIEタイム(朝行事)  先生たちがおススメする新聞記事を 読んだり、感想(かんそう)を書いてもらったりします。
③NIEの授業 いろいろな教科でNIEをとり入れた勉強をします。 	新聞にふれると とてもよいことがあるよ(o^_^o) ①自分の頭がよくなる! ...NIEにとりくんでいる学校の児童は テストの点数が高いです!	②世の中のたいせつなことを ただしく知ることができ、 自分の頭や心の成長につながります!

(2) 「NIEタイム」の新設

①全教員による新聞記事の紹介

毎週金曜日の朝行事を中心に、2学期より「NIEタイム」を始動した。教師が児童の興味を引きそうな新聞記事を探し、学年の発達段階に応じた質問を考え、明記したものを「ロイロノート」上で児童が学習するというスタイルである。時事問題や雑学に触れることで、様々な分野の知識や語彙の獲得をねらいとしながら、児童に新聞を身近に感じてもらうための取り組みである。NIE担当が中心となり、担当表を作成して教員に周知を図った。

②タブレットの思考ツールの開発

また、担当教員が選んだ記事に応じて、児童に取り組ませた学習活動を選んで提示できるようなひな型を研修部で開発し、統一したツールを使用している。ひな型上部にある、研修部で考案した学習活動は以下の通りである。

- | | | | |
|---|---------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
| ☐ じっくり読む | ☐ 音読する | ☐ ～を探して○で囲む | ☐ ～の部分を書き写す |
| ☐ 全文を書き写す | ☐ 気になった部分に線を引く | ☐ 賛成する部分に線を引く | |
| ☐ 自分の考えと異なる部分に線を引く | ☐ 見出しを考えて書き込む | ☐ 要約する | |
| ☐ 見出しを選択肢の中から一つ選ぶ | ☐ 意見を書く | ☐ 感想を話し合う | ☐ 感想を書く |
| ☐ 意見を話し合う | | | |

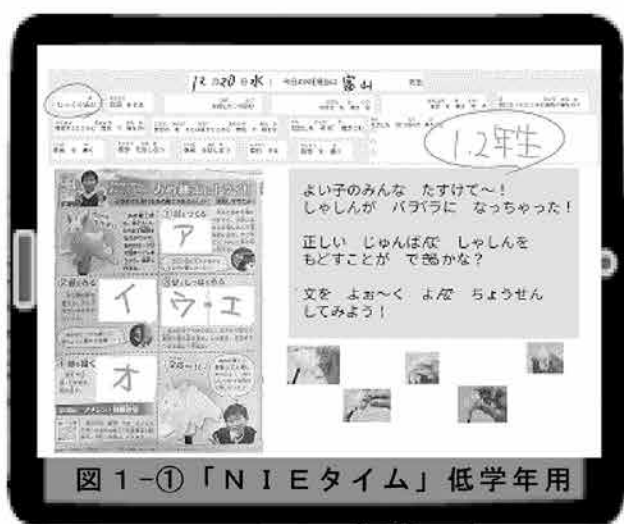


図 1-①「NIEタイム」低学年用

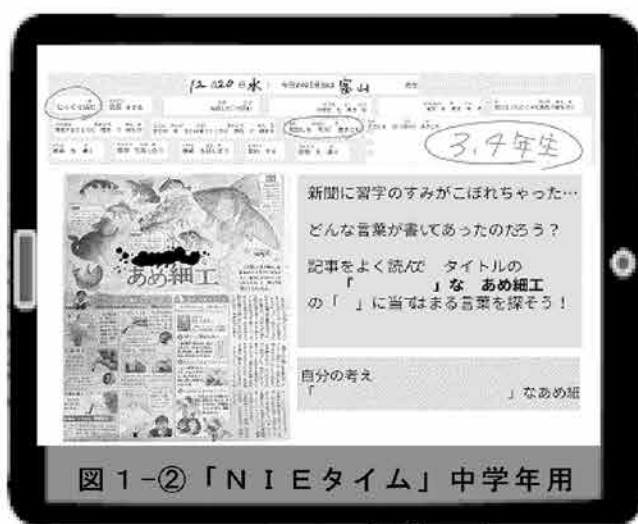


図 1-②「NIEタイム」中学年用



図 1-③「NIEタイム」高学年用



NIEタイムの児童の様子

担当になった教員は、「子ども新聞」などから記事を引用し、学年の実態に合わせて学習内容を変えながら作成した。付箋紙機能に課題を表示し、ピンを外せばその下の付箋紙に正答が記してある、といったシート（図 1 ①-③）である。

(3) 「YOMUYOMUワークシート」の活用

読売新聞社が提供する「YOMUYOMUワークシート」を4～6年生を対象に、朝学習や国語の授業で取り組ませた。4年生の学習活動中に、読売新聞社の取材を受けたことがあった（図 2）。児童から寄せられた声の中に「国語の長文読解は苦手だったが、やっていくうちに楽しくなってきた。」という意見もあり、今後も学習機会を継続的に設けることで、読解への意欲喚起に繋がると期待している。

(4) NIEコーナー（図 3）



図 3



図 2 令和 5.12.12. 読売新聞

場所は児童の目に留まりやすい体育館通路入り口にした。授業で使用する場合には、自由に利用できるという共通理解のもと行なった。また、教師用NIEコーナーを印刷室に設けた。児童用に設置した新聞の過去1ヶ月分程度を印刷室に移動し、授業で使用する時の参考にしてもらった。また、ささやかではあるが、NIEにかかわる資料コーナーも設置した。

(5) N I Eを取り入れた一人一授業の実践

校内研修の一環として、令和5年度の研修テーマ「正しく読み取り、豊かに表現できる児童の育成」に加え、N I Eを取り入れた一人一授業を実施した。

① 2年生国語「お手紙」の単元での新聞作成

初めて読み聞かせた時、3人の登場人物(がまくん、かえるくん、かたつむりくん)の言動に対して、児童から思い思いの感想が出された。「共感」や「疑問」「自分だったら・」等さまざまである。「想像する」という主となる指導事項をふまえつつ、初発と単元末の感想の比較ができるような新聞作りを目指した。記事の中身は、3人の登場人物それぞれに語りかける形となっている。「さいしょはなぜそんなことをするの?」と思ったけど、今ではきみの気持ちがわかるよ」や、「ぼくも□□したことあるから、やっぱり〇〇した方がいいと思うよ」等、自分の経験を入れながら生き生きとした文章を書いていた。A4サイズの新聞にあるそれぞれの記事枠は、それほど大きくないため、作文が苦手な児童にとっても取り組みやすかったと思われる。挿絵や文量を児童自身で決めて、楽しみながら取り組んでいたのも印象的だった。また、完成した新聞を掲示(図4)すると、友達の新聞と自分のものを比較しながら読んだり、意見を交換したりする姿が見られた。

新聞が持つ一覧性の特長は、作成者にとってだけでなく読者にとっても大変有効であると実感した。

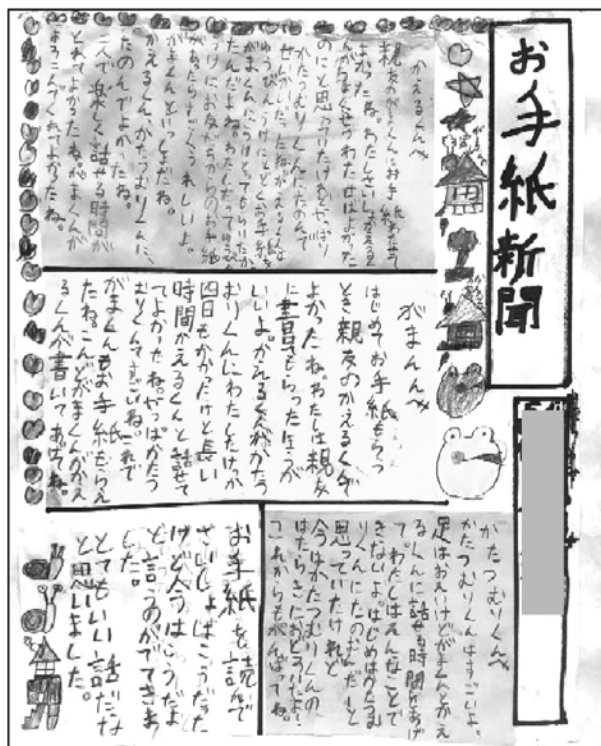


図4

② 4年生道徳「授業構想シート」(右ページ図6)



図5

終末の場面で『論語』の一説「過ちて改めざる、是れを過ちと謂う」に触れた子ども新聞記事(図5)を読むことで、道徳の価値項目である「正直、誠実」であることの必要性や尊さについて再確認することをねらいとした。

特に、「失敗に気づいた時に、すぐに改められるかどうか、失敗の内容だけでなく、改める姿にもその人らしさが出る」「失敗してもまちがいを認めてやり直すには勇気がいるが、これができれば信頼関係を築けたり自分の行いに自信が持てたりするようになるはず」という意見を強調できたので、「本当のことを言えないままだとすっきりしない」などという意見が、「今までは失敗したり、間違えることが過ちだと思っていたけれど、過ちを改めないことが本当の過ちだと初めて知りました」などと、新聞記事を読んだ後の所感に変化が見られた児童が多かった。

道徳で意識させたい価値項目について、補強できる新聞記事を探すのは時間を要したが、児童の意識を高めるのに有効な記事であった。

ねらい 自分に不利になることでも、自分 分を偽らないで正直に行動しよう とする。 身につけさせたいこと 今後の生活で過ちや失敗をこま かさないで正直に行動してい 意識を高めている姿。 表れてほしい児童の意識(姿) 主人公の迷いや葛藤を自分ごと としてとらえながら、意見を積極 的に交流している姿。	① アンケート結果 ② 発問 ③ 人物相関図 など ぼくは MVP めあて 正直に行動することにつ いて考えよう。 ○「こうちゃん」はなぜ迷っ たのでしょうか。 ・自分はボールに当たって いるのでアクトだけで、周 りには気付かれていないから。 ・このタイミングで言うとな ら、自分のチームに不利になっ てしまうから。 ◎あなたが「こうちゃん」の立場 なら本心で何を言いますか? ※名札を貼り、自分の立場 を可視化する。
1 本時で扱う道徳的価値について、 問題意識をもつ。 ○基本発問 ◎中心発問 ☆補助発問 ・児童の反応 自分が過ちや失敗をしたときに、 正直に言えずにこまかしてしまっ たことありますか? 本時のめあて を確認する。 ・正直に伝えることができた。 ・怒られなくて失敗をこまかし てしまった。 めあて 正直に行動することにつ いて考えよう。	2 教科書の教材文の範読 を聞く。 ☆「推論」 資料の前半を読み、本当のことを 正直に言わなかった「こうちゃん」 の気持ちを考えよう。 ○「こうちゃん」はなぜ迷ったの でしょうか。この行動をどう思 いますか? ・自分はボールに当たっているの でアクトだけで、周りには気付かれて いないから。 ・このタイミングで言うとなら、自 分のチームに不利になってしまうから。 ◎あなたが「こうちゃん」の立場 なら、本当のことを言いますか。言 いませう? 理由も考えましょう。 ◎「言わないともやもやするから。 言わない」 ・本当のことをいうと、するをしたと言 わねえから。 ・聞かなくてもわかっている雰囲気はこわ しくないから。 ◎あなたは実際に行動できますか? ? 本心にその決断でいいですか?
3 教材を通して、道徳的価値につ いての考えをもち、交流する。 ☆「イメージ同定」 資料の後半を読み、同じ意見の 人や異なる意見の人と交流する。 ◎あなたが「こうちゃん」の立場 なら、本当のことを言いますか。言 いませう? 理由も考えましょう。 ◎「言わないともやもやするから。 言わない」 ・本当のことをいうと、するをしたと言 わねえから。 ・聞かなくてもわかっている雰囲気はこわ しくないから。 ◎あなたは実際に行動できますか? ? 本心にその決断でいいですか? 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学 習のめあてについてもう一度考える。 ・本時で扱った道徳的価値に対する思い、願 い、考えを振り返る 新聞記事を読み、正直に行動す ることのよさを理解する。 ○孔子の「論語」に関する新聞記 事はどんなことを言っているのだ しょう。 学習内容を振り返り、考えをワ ークシートに書く。 ○「ぼくはMVP」や新聞記事 を通して、気付いたり、考えが変化 したりしたことは何ですか? これか らはどのように生活していきたいで しょうか?	

図6 校内研修一人一授業で用いる「授業構想シート」

③ 5年生国語「あなたはどうか考える」

新聞記事や投書に対する意見文を書く活動である。教師が新聞の投書から、取り組みやすいテーマを探した。「教科書派? タブレット派?」「朝食を取らなくてもいいか、よくないか」「注意する側が気を使うか、注意される側が悪いかな」などのテーマを設定し、立場を明らかにした上で意見文を書かせた(図7)。読み手が納得するような意見文を書く学習において、実際の新聞を用いることで実社会とつながりを意識し、多様な考えや根拠をもつことにつながったと考える。

朝食を取ろう!

朝食は、毎朝必ず取るべきだと思えます。なぜなら、朝食を食べることで、脳や体を目覚めさせ、集中力を上げてくれるなど、体に良い影響をもたらしてくれるからです。

また、イライラしにくくなったり、成績が上がったりやすくなったりと、脳や心にも良い影響をもたらしてくれます。僕は、いつも朝食を取る前に勉強をしています。僕は、集中できず、ボウとしてしまい、勉強が全然はかどらなかった時があります。

そのせいで、ちょっとした勉強に1時間以上がかかってしまうことがありました。

確かに、時間がなければ、「朝食なんか食べる場合じゃない!」と、考えている人もいるかもしれませんが、しかし、毎朝朝食を取らなければ、脳や体が目覚めず、昼食を取るまでの午前の時間を快適に過ごせなくなってしまおうのです。

一日の半分である午前の時間を楽しく、快適に過ごすためには、毎朝必ず朝食を取るべきだと思います。

図7

3 実践の感想と今後の課題

(1) 感想

NIEを児童にも教師にも伝播するために、「NIEタイム」「NIEを取り入れた校内研修での一人一実践」などを中心に行った。先生方から提案される様々な新聞記事や新聞記事を用いた学習活動は、児童の知的好奇心を高めるものであり、「新しいものを広く知りたい」「『わからないものを深く理解した』」という意識に繋がった」という感想からも、初年度の目標「新聞に慣れ、親しむ」ことは達成できたように思う。

今後はNIEを通して児童の「話す・聞く力」「書く力」「読む力」「理解力・考えを深める力」などが伸長できるような授業実践を取り入れ、今年度と次年度以降の児童の意識や能力の変化を見取っていききたい。

(2) 今後の課題

教師にアンケートを実施したところ、「教員の『指導力』の変化」について「本時や単元のねらいを意識した教材研究につながった」「授業の幅が広がった」と感じる一方で、「指導法が確立できていないため、効果的な教材研究が難しかった」「学習内容に有効な新聞記事を見つけるのに苦労した」などの声もあがった。今後は効果的な新聞検索方法の研修や、様々なNIEの授業実践を紹介する機会などを設けたい。NIE実践指定校であることを機会とし、教師自身も「NIEの有用性」を実感しながら教材研究の蓄積を自信とし、指導力を高めていくことに繋げたい。

交流し、協働し、広い視野をもつためのNIEの活用

～作品投稿と授業での活用を通して～

太田市立北の杜学園

小須田美枝子

1. はじめに

本校は、太田市の中心部、金山の麓に立地する開校3年目の義務教育学校である。1年生から9年生まで全校児童生徒792名（令和5年5月1日）が一つの学び舎で生活し、9年間を見通した特色ある教育活動を展開している。特に、異年齢による交流の機会を意図的、計画的に取り入れ、人間関係力や社会性を育むことを基本方針の一つに挙げている。その基礎を培うために、相手の考えを認めたり自らの考えを表現したりする一端として、新聞を活用し、視野を広げる良い機会としたいと考え、昨年度に引き続きNIE実践指定校として取り組んできた。

2. 実践の概要

身の回りの出来事に関心を持ち、将来を展望できる広い視野と深い思考を育てるツールとして新聞を活用していく。新聞を授業に取り入れ有効活用し、読み比べたり投稿したりする中で、作品を認め合ったりよりよいものを作り上げたりする活動を通して、意欲を高め、読解力や表現力の育成につなげたいと考えた。2年目の今年は、常時活動である作品投稿とともに、授業でどのように活用できるかを意識して、実践に取り組んだ。

3. 新聞の置き場所と整理の方法

本校は敷地が広く、学年也多岐にわたるため、置き場所についていろいろな意見が出されたが、昨年度図書委員会とコラボした企画が好評であったことと、新聞もメディアの一つであることから、メディアセンター（以下図書室）をNIEの核として、実践を進めていくこととした。そこで、一般紙は図書室の前に**（写真1）**、子ども新聞は図書室の中に**（写真2）**に、それぞれ一週間分を置いた。

【→写真1：一般紙を置くコーナー】



特に前期課程の児童にとって一般紙は難しいことが昨年度の反省としてあったので、今年度は、子供新聞の割合を7紙中、2紙から4紙に増やした。これにより、図書室の中でゆったりと読めるものが増え、児童にとっても手に取りやすいという利点が見られた。

4. 実践の内容

（1）常時活動

① 創作の奨励と投稿

昨年度に引き続き、自分の思いを形に表す方法として俳句や短歌、詩、作文の創作を奨励している。具体的には、投句用紙を職員室に置いておき、各教員が自由に持っていく。作品は、4年生までは各担任が投句BOXに入れる**（写真2）**。このBOXは5・6年生のフロアにも置いておき、5年生以上は自由に用紙を持って行くことができ、作品は自分で投句ボックスに入れる。回収は、担当が定期的に行っている。



【写真2：俳句・短歌用紙コーナー】

作品は、上毛新聞の「ジュニア俳壇」「青春短歌」「ジュニア詩壇」に投稿している。5、6

年生を中心にたくさんの投稿があり、中でも、新聞一面の「朝の一句」コーナーに写真入りで掲載された児童が、昨年より増え6人いた。また、年間で俳句5句、短歌5首、詩3編以上掲載された児童生徒に贈られる「年間賞」を、2名の児童が受賞した。

2023年ジュニア詩壇投稿 上位20校		
順位	校名	掲載数
1	前橋清里小	348
2	前橋大連小	42
3	前橋荒子小	31
4	前橋山王小	33
5	前橋大連小	15
6	前橋大連小	24
7	伊勢崎宮郷小	14
8	伊勢崎宮郷小	10
9	前橋大連小	12
10	前橋大連小	7
11	前橋大連小	13
12	前橋大連小	2
13	前橋大連小	4
14	前橋大連小	2
15	前橋大連小	4
16	前橋大連小	2
17	前橋大連小	4
18	前橋大連小	2
19	前橋大連小	7
20	前橋大連小	8

2023年青春短歌U20投稿 上位20校		
順位	校名	掲載数
1	前橋山王小	105
2	利根商業小	89
3	利根商業小	41
4	前橋大連小	27
5	前橋大連小	39
6	前橋大連小	50
7	前橋大連小	32
8	前橋大連小	27
9	前橋大連小	27
10	前橋大連小	31
11	前橋大連小	38
12	前橋大連小	15
13	前橋大連小	27
14	前橋大連小	21
15	前橋大連小	27
16	前橋大連小	23
17	前橋大連小	3
18	前橋大連小	10
19	前橋大連小	
20	前橋大連小	

【資料1:上毛新聞 2024(令和6)年1月18日号13面より】

② 新聞ワークシート・新聞感想文の活用

6年生は週末課題として月1～2回、新聞感想文を出している。活用する記事は、幅広い内容に触れさせ、初読の文章に慣れてほしいという願いから、上毛新聞「扉を開くN I E」に掲載されているワークシートを中心に、多岐にわたるものを選んでいる。

書いた文章は、新聞に投稿し、掲載された作品は、①の投稿作品とともに、図書室の廊下に掲示している。
(写真3) 図書室にしたのは、玄関の横にあり通行が多い場所であるのと、ガラス戸になっていて、掲示部分が大きく見やすいことによる。



【写真3:図書室廊下作品展示コーナー】

(2) 新聞を活用した授業実践

① 5年生の実践

実施時期	5月中旬
教材名	教育出版『ひろがる言葉4年上』新聞を読もう／「情報ノート」を作ろう
单元名	新聞を読もう
手だて	単元の導入として、上毛新聞N I E 担当の記者に出前授業をしていただいた。
成果	・講師の話に児童はよく耳を傾け、興味津々で聞いていた。 ・当日の新聞を人数分配布していただき、全員で同じ紙面を見比べてみられたのも有効であった。 ・この後、授業では、自分で気に入った記事を一つ選びそれについてまとめる活動をしたが、意欲的に取り組む姿が見られた。

② 4年生の実践

実施時期	9月上旬
教材名	教育出版『ひろがる言葉4年上』「新聞を作ろう」
単元名	写真などの図の良さを知り、活用しよう
内 容	友達に知らせたい夏休みの思い出を決め、記事の割り付けを考えたり、効果的な写真を選んだりして、「夏休み新聞」を作成した。
手だて	単元の導入として、上毛新聞の記者に出前授業をしていただき、新聞の形式について学んだ。
成 果	・新聞記者がどのような視点で写真を撮っているかを知ることで記事に合った効果的な写真の選び方が分かった。 ・実際の新聞を見て、割り付けの仕方が分かった。

③ 7年生の実践

実施時期	10月上旬
教材名	三省堂『現代の国語1』「故事成語－矛盾」
単元名	新聞をつくって故事成語を紹介しよう
内 容	教材を活用して、訓読の仕方や故事成語の面白さを知る。面白いと感じた故事成語や、日々の生活で使える優れた故事成語について調べ、新聞として紹介する言語活動を実施。
手だて	上毛新聞をモデルとして提示し、レイアウトや見出しなど、見た目の工夫を見つける
成果	・実際の新聞を、読みやすい工夫は何かという視点をもって読んだことで、新聞の面白さを感じている様子があった。 ・自分で新聞を作成する時にも、読み手のための工夫を考えて、相手意識をもたせることに有効であった。 ・紹介する活動では、故事成語に親しみながら、記事レイアウトや内容の改善点を考えることができた。

④ 6年生の実践

実施時期	11月上旬
教材名	教育出版『ひろがる言葉6年下』「ぼく言葉君の言葉」
単元名	説明文を読んで、考えたことを書き、友達の考えと比べよう
内 容	要旨をまとめるための文章例として、日曜版の子供新聞に掲載されていた「少年の主張群馬県大会」の入選作品を活用した。
手だて	教材である説明文に出て来た「言葉のキャッチボール」という文言がキーワードであり、具体的で分かりやすい内容であることから『「会話」を大切に』という優秀賞の文章を教材文2として活用。共感したところに線を引き、それをもとに自分の考えをまとめるよう指示した。
成果	・考えたことを書く対象として、児童の多くがその2の主張文を選択した。その理由として「それってあなたの感想ですね。」という書き出しなど、インパクトがある文体であること、選ばれた作品だけに、構成がしっかりしており説得力もあること、書き手の年代が近いこともあり、「論破」「マウントをとる」など、児童自身が見聞きしたり使用したりしたことがある言葉による具体例が、共感し、考えをもちやすいこと等が考えられる。 ・この後、「自分でテーマを決めて説得力のある意見文を書こう」という単元でも、記事の文章構成を参考にしていた。

⑤ 8年生の実践

実施時期	11月下旬
教材名	三省堂『現代の国語2』「情報を関連づけて根拠を明確に示す」
単元名	自分の立場を明確にして、投稿文を書こう
内容	投稿文を作成するための文章例として、東京新聞「若者の声」をモデルとして提示し、良い文章の構成を理解する。
手だて	モデル文を提示し、事実・主張・経験の3つに着目して線を引かせることで、それぞれが関わり合い、説得力のある文章になっていることを理解させる。その上で、自分が気になるネットニュースの記事を端末で探し、その事実に関わる経験を踏まえて主張を述べながら、投稿文を作成するよう指示した。
成果	- モデル文があることで、素早く取り組むことができた。また、今回は「構成」に着目してモデル文に触れたため、多くの生徒が「構成」を意識して投稿文を作成することができた。 - 同年代の中学生の投稿文だったため、表現が難しすぎず読みやすく、抵抗なく取り組むことができた。

【資料2：8年生で活用した記事
東京新聞 2020年7月17日号】



5. 今年度の成果と次年度へ向けて

○ 様々な学年で、新聞を取り入れた授業実践が行われた。大きくは、記者による講話など人的資源の活用と、記事の教材化による物的資源に分けられるが、いずれも成果が見られた。

○ 教材化については、本校児童の投稿文を活用したことも成果であった。具体的には、6年生の「自分でテーマを決めて説得力のある意見文を書こう」という単元で、「紙の新聞の良さ」をテーマに取り上げた児童がいた。これが新聞に掲載されたため、その掲載文を配付し、感想をタブレットで交流し、新聞の良さについて話し合った。

また、「言葉をひろげよう」のまとめ学習として、個々にテーマを決め、スライドにまとめて発表するという活動のきっかけに、「いろは歌」について書いた児童の投稿文を用いた。

どちらの実践も、掲載されること自体が児童にとって刺激であるとともに、児童が積極的に感想を交流したり、意欲的に取り組んだりする姿が見られ、教師が説明する以上の効果を感じ、有効であることを実感した。

* 今年度の実践の柱の一つと考えていた図書室との協働が、十分に機能できなかった。今後は、置き場所としてだけでなく、児童生徒が積極的に新聞を手にとり、読んで考えることに繋げたい。また、記事の紹介に図書委員を活用するなど、児童生徒目線のNIEを目指したい。

「授業における深い学びの実現」を目指すためのNIEの活用

～新聞に親しむ、慣れる、触れる活動を通して～

千代田町立千代田中学校 北爪 沙綾 富田 隼矢 若田部涼子

1. はじめに

本校は、群馬県の東部、千代田町にある町内唯一の中学校であり、生徒数 293 人、11 学級である。校内アンケートによると、約 30% の家庭で新聞をとっていることが分かった。しかし、家庭で新聞に目を通してしている生徒は約 40% しかいなかった。より多くの生徒に新聞に触れる機会を作り、全ての学びの基礎となる「読解力」を向上させる取り組みをしたいと考え、本年度より新規 NIE 実践校となり取り組んできた。

2. 実践の概要

本校の研修テーマである「授業における深い学びの実現」を目指す一環として、新聞を授業に取り入れ有効活用し、読解力や表現力を育成していきたいと考えた。また、週に 1 度 NIE の朝学習の時間をつくったり、新聞に触れる機会を増やしたりすることで新聞に慣れ親しみ、よさを実感できるようにしたいと考えた。

3. 新聞の置き場所と整理の方法

(1) 新聞コーナーの設置と整理

本校は N I E 実践校として指定を受け、読売、朝日、毎日、東京、日経、上毛、産経の 7 紙を 9 月から 3 月末日までの間、配達していただいた。配達された新聞は生徒の往来が多い、2・3 年生の玄関前(写真 1)と 2 階の廊下(写真 2)に設置した。

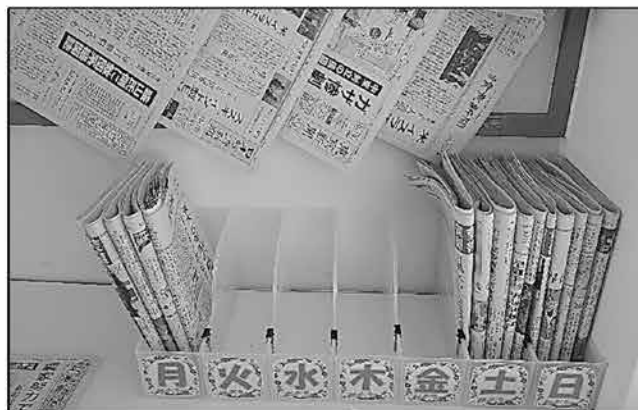
【写真 1 2・3 年生の玄関前】



【写真 2 2F 新聞コーナー】



2階廊下の新聞コーナーには当日分の新聞と前日の記事を振り返れるように1週間分の新聞を置き、誰でも自由に閲覧できるようにした。(写真3)また、身近な話題が掲載されている上毛新聞を平置きにしたり、新聞の見方や読み方のヒントを掲示したりして生徒たちの興味・関心を高めるための工夫をした。(写真4・5)



【写真3 1週間分の新聞】

その後、2・3年生の玄関前に移し、3年生が入試や面接試験に向けていつでも閲覧できるようにした。

バックナンバーは空き教室のロッカーに種類ごとに整理して、職員が授業等でいつでも活用できるようにした。(写真6)



【写真4 新聞の読み方】



【写真5 平置きした上毛新聞】



【写真6 バックナンバー】

4. 実践の内容

(1) 朝のNIEタイム(朝学習)

週に1回「NIEタイム」を設定し、全クラスで新聞記事を基にしたワークシート(写真7)に取り組む時間を設けた。ワークシートはタブレットで配信し、10分間で解答し、丸付けをして提出させた。

最初は新聞を読むことに慣れておらず、読み取りが難しいと感じていた生徒もいたが、回を重ねるごとに読み取りができるようになってきたと感じた。1年間を通して30回行い、さまざまなジャンルの新聞記事に触れることで、時事問題に目を通すきっかけとなった。

【写真7 よむYOMUワークシート】

★よむYOMUワークシート No.15 [社説] 誰が未来を八八に

社説
才能と努力で前人未到の快挙

【社説】誰が未来を八八に

「才能と努力で前人未到の快挙」という言葉は、多くの人が憧れる。しかし、その言葉の裏には、多くの苦労と努力がある。才能と努力は、成功の鍵である。しかし、才能と努力だけでは、成功はできない。才能と努力は、成功の鍵である。しかし、才能と努力だけでは、成功はできない。才能と努力は、成功の鍵である。しかし、才能と努力だけでは、成功はできない。

1 記事では、誰が未来の快挙を三つ、一文の中で説明しています。三つの要素をそれぞれ、「一」に格くように書きましょう。

2 記事が発表の文章表現を基に、込められた筆者の考えについて、最も適切なものをそれぞれが選び、番号を記しましょう。

①「へそぞろだ」という言葉で、筆者は人の愚昧さを諷刺している。 ()

②「へそぞろだ」という言葉で、筆者は人の愚昧さを諷刺している。 ()

③「へそぞろだ」という言葉で、筆者は人の愚昧さを諷刺している。 ()

④「へそぞろだ」という言葉で、筆者は人の愚昧さを諷刺している。 ()

⑤「へそぞろだ」という言葉で、筆者は人の愚昧さを諷刺している。 ()

⑥「へそぞろだ」という言葉で、筆者は人の愚昧さを諷刺している。 ()

⑦「へそぞろだ」という言葉で、筆者は人の愚昧さを諷刺している。 ()

⑧「へそぞろだ」という言葉で、筆者は人の愚昧さを諷刺している。 ()

⑨「へそぞろだ」という言葉で、筆者は人の愚昧さを諷刺している。 ()

⑩「へそぞろだ」という言葉で、筆者は人の愚昧さを諷刺している。 ()

(2) 授業での活用 (3年)

3年生の国語の授業で新聞のスクラップ(写真8、9、10)を作り、模造紙にまとめることを課題とした。新聞を読む機会が年々減ってきていることを踏まえ、まずは、新聞に触れることを目的とした。新聞の読み方や考えながら読むための視点について学習することを中心とする。

①教材名「報道文を比較して読もう」—新聞記事で世の中を見つめる—

同じ内容の記事を読み比べることによって、報道文の書かれ方の違いや特徴について学習する。本教材では、記事をスクラップにすることで、自分の考えをもちながら読むことをねらいとしている。

②教材の目標

目標・学習した内容を活かしながら実際の新聞を読み、内容について自分の考えをもち、スクラップにすることができる。

③本時の学習

主な学習活動	指導上の留意点
1. 新聞のデザインについて確認する。	・見出しや本文などレイアウトに関する学習を振り返り、新聞の読み方を思い出せる。
〈めあて〉 記事の内容を整理しながら、スクラップを作ろう	
2. 新聞をレイアウトに気をつけながら読み、活動に使う記事を探す。 3. 取り上げた記事を自分で考えながら詳しく読む。 ○以下の点に線を引きながら、読み込む。 ・記事の中で重要な言葉や内容 ・共感/納得できる、できない ・疑問 4. A4の紙にスクラップする。 ○記事を自由に切り貼りし、余白部分に考えや気づきを書く。 ・余白部分には、言葉やイラスト、図を用いて書く。	・生徒が読んでいく中で気になる記事を使う。 ・読む際の視点を全体で共有してから活動を始める。 ・考えながら読み進めていけるように、線を引かせ可視化する。 ・選んだ記事の全てをスクラップにするのではなく、必要だと考えた部分を貼るように指示する。

【写真 8、9、10】スクラップにした記事



5. 振り返り

・振り返りやすいように、内容を提示する。

選んだ記事がどういう視点で書かれていたか。また、どんな意図をもってスクラップをデザインしたのか。

6. 次回の予告

・次回の学習では、スクラップを模造紙にまとめることを伝える。

④その後の活動

生徒それぞれでスクラップにしたものを、協力して模造紙にまとめる活動（写真 11）を次の時間に行った。生徒はお互いのスクラップを見ながら似ている記事や共通している部分を探し、考えながら数枚の模造紙にそれぞれまとめていた。模造紙のレイアウトは、生徒達で考え、工夫して見出しを書いたり、イラストを加えたりしていた。



【写真 11 模造紙】

5. 成果と課題

今年度、初めて NIE の取り組みに参加させていただき、授業や朝学習で活用してきた。新聞を教室に向かう通路に設置したことで興味を持ち、進んで新聞を読む生徒の姿も見られた。またスクラップ作りを通して、今、日本や世界で起きていることについて興味を持って読むことができた。しかし、まだまだ新聞に触れる機会が少ないため、設置方法の見直しや、新聞の貸し出しなど新聞コーナーに立ち寄る習慣を付けさせ、授業だけでなく、日々の生活でも新聞を読む機会や習慣が増えるようにしていきたい。

新聞を活用し、世の中をより広い視野で見ることのできる生徒の育成 ～実際に新聞に触れたり、活用したりする実践を通して～

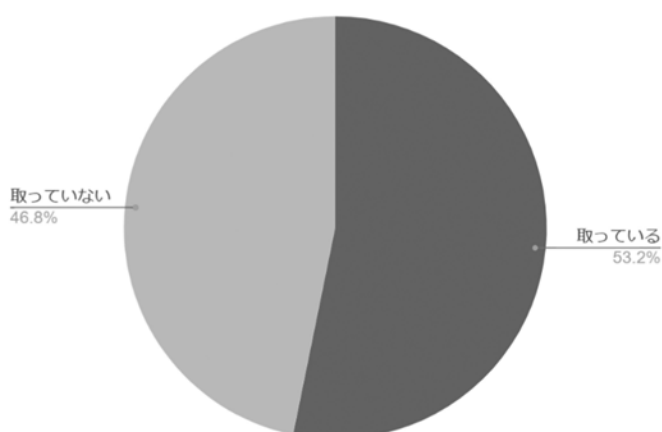
孺恋村立孺恋中学校

Ⅰ はじめに

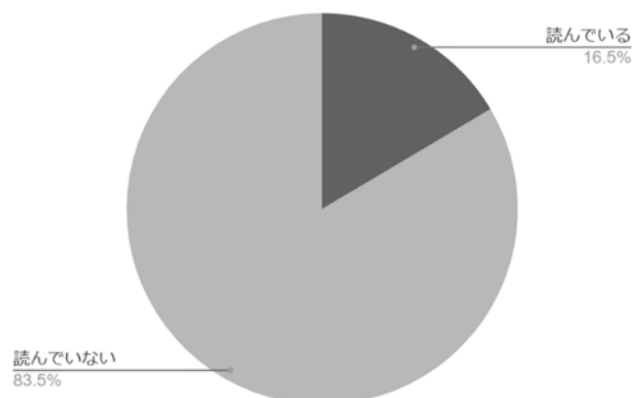
本校は、2012 年 4 月に、旧孺恋東中学校と旧孺恋西中学校が統合し、誕生した。南に浅間山、西に四阿山、北に白根山のパノラマが広がる風光明媚な場所に位置しており、全校生徒の 8 割以上がスクールバスによる登下校を行っている。

本校が N I E の実践校となったのは、3 年ぶりとなる。NIE を実践するにあたり、本校 1 5 6 名の生徒に、新聞の購読アンケートを行ったところ、以下の結果になった。

①あなたの家は新聞を取っていますか？



②①で「取っている」と回答した人に質問します。あなたは家で新聞を読んでいますか？



アンケートの結果、半数以上の家庭が新聞を購読していることや、購読している家庭に住むほとんどの生徒が、新聞を日常的に読んでいないことがわかった。そのため本年度、孺恋中学校では、生徒が新聞の良さを知り、新聞に親しみをもてるように、実践を行った。

2 実践の概要

〈実践 1〉新聞コーナーの設置

今年度は 9 月から 12 月の 4 ヶ月間にわたり、毎日・上毛・日経・産経・東京の 5 社の新聞に加え、読売系列の英字新聞である Japan News と、朝日新聞社が出版する朝日中高生新聞 を加えた 7 紙を購読した。全校生徒が行き交う談話ホールに「新聞コーナー」を設けた。その日の新聞はラックに挟み、過去の新聞はアーカイブとして棚に保管した＝写真。気になるニュースや新聞を手にする生徒の姿も見られ、新聞に親しみやすい空間を作り出すことができた。



〈実践2〉授業での取り組み

- (1) 単元名 見出しをつけよう(全1時間)
- (2) 単元のねらい 記事を読んで見出しを考えることで、記事の要点を掴ませる。また、読み手に興味をもたせるための工夫を感じ取れるようにする。
- (3) 実践の手立て
- ①見出しの役割を挙げる。
 - ②見出しの一部が空欄になった記事を提示し、どのような見出しか予想する。
 - ③1人1部ずつ1日分の新聞を配り、気になった見出しとその見出しの良いと思ったところを書く。
 - ④3種類の記事を列ごとに配布し、自分で見出しをつける。
様々な種類の記事に触れられるように、3種類の記事を用意した。見出しをつける前に内容をまとめる欄を設け、見出しをつける際のヒントとなるようにした。
 - ⑤同じ記事の見出しを考えた人同士で共有し、お互いの見出しの良さを伝え合う。
違う記事を使った人のワークシートを見る時間も設け、記事によって見出しの系統も異なることを紹介した。
- (4) 評価の視点
- 記事の内容を捉えた見出しになっているか。また、読み手に興味をもってもらえるような工夫がされているか。

(5) 実践の様子 (写真右)

(3) ②で、見出しは記事の内容をまとめるだけではなく、読み手に関心をもたせる役割があることを伝えるねらいがあった。この場面では、オノマトペが使われた見出しを取り上げた。予想外の見出しがつけられていることに驚き、様々な見出しの形があることを実感できたようだった。

(3)④では、読み手の興味を引くような見出しになるよう工夫できている生徒もあり、見出しを共有した際には他の人の考えを賞賛する声も聞こえてきた。



(6) 成果と課題

見出しという短い言葉を作る活動だったため、抵抗感なく取り組んでいる生徒が多かったのが良かった。また、生徒たちは記事で取り上げられているものについて、教科書では得られない知識を習得できているようだった。積極的に新聞に触れることで、新しいことを知れるのだという実感をもたせられたのではないかと考える。

本単元では、見出しをつける前段階として内容を時・場所・関係する人等に分けてまとめさせた。しかし、記事の内容を読み取ることに苦戦し、なかなかまとめることができていなかった。このことから、記事の内容を理解することに關して課題があることが分かった。短い記事から徐々に長い記事

を読むようにしたり、記事の内容を周りの人に伝える活動をしたりして、読むことに慣れていけると良いと考えた。

〈実践3〉 学級での取り組み ～ 新聞記事のスクラップシート作成 ～

新聞の購読数は減少し、新聞が身近な存在ではなくなっている。また、スマートフォンの普及によりテレビ離れも進んでいる。本校におけるスマートフォンやタブレットの所持率は非常に高く、長時間の使用による睡眠不足等の生活習慣の乱れや、それに伴う学力不振が課題となっている。生徒たちの情報源はインターネット上の断片的なニュースが多いようである。「何となく知っているけど詳しくは知らない」ことが多く、興味があることについては「非常によく知っている」という様子を、生徒との会話や授業での発問で感じる。大量の情報をいつでも、どこでも手に入れられる一方で、最近ではフィルターバブルが問題視されている。個別最適化が容易になったことで、気づかないうちに偏った情報をもとに、偏った知識で偏った解釈をしてしまうのである。その点、新聞はある程度中立性が保たれた信頼度の高い情報を得られるので、より広い視野で社会を眺めるきっかけとなるのではないかと考える。

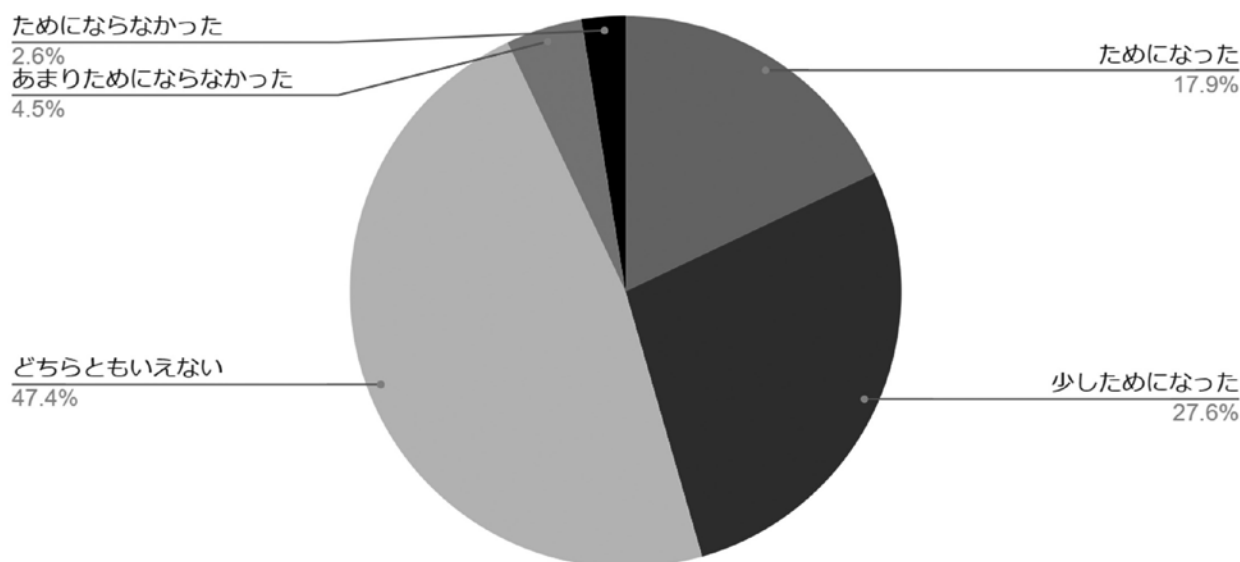
高校受験を控え面接練習を意識する時期から、3学年では日直の役割のひとつである帰りの会でのスピーチを、新聞記事のスクラップシート作成とその発表（下の写真）へと変えた。複数の新聞社の紙面から、自分の興味のある記事を見つけ、記事の要約や感想を書く活動を約5ヶ月継続することで、休み時間に記事を選び、新聞コーナーへ行く生徒や友達と新聞を見に行く生徒が増えてきた。また、自分の興味のある記事としたことで、いくつもの紙面をめくり、記事を読む姿がみられ、普段は目にしない情報に触れたり、興味のあることを深く知ったりする機会にできたようである。スクラップシートの内容には、生徒ごとに大きな偏りがあるものの、面接練習の一環として実施することで、比較的高いモチベーションで取り組むことができたように感じる。



3 実践の感想と今後の課題

1 月に、NIE の活動について生徒にアンケートを取ったところ、以下の結果になった。

2 学期は、談話ホールに新聞コーナーが設置されたり、新聞を題材にした学習があったりしましたが、あなたにとってどうでしたか？



アンケートの結果、NIE の実践を終えて、自分にとって「ためになった」「少しためになった」と思う生徒が、「ためにならなかった」「あまりためにならなかった」と思う生徒よりも、圧倒的に多くいることが分かった。(約 6.4 倍)しかし、「どちらともいえない」生徒も全体の 47.4%おり、来年度の実践では、この層の生徒たちにも、新聞の良さを知ってもらうことが、婦恋中学校の課題である。

成果として、NIE の活動を行ったことで、婦恋中学校で大きな変化が見られた。特にそれを感じたのは 3 年生だった。普段からニュースなどに関心を示さない生徒も、休み時間を利用し、談話ホールに設置されている新聞を読むようになった。その生徒たちに理由を聞いたところ、「入試の面接対策に新聞が役に立つんです。」と回答した。

ほかにも、大谷翔平選手のドジャース移籍について、多くの生徒が興味を示し、新聞を読んでいる姿が見られた。

NIE の活動をする前は、全く新聞を読む習慣がなかった生徒も、実践を終えた今では、新聞について抵抗感がなくなりつつあるようである。

今後も NIE をきっかけに生徒が新聞に関心をもち、得られた情報から広い視野で世の中について考えられる力をつけられるような実践を行っていきたい。

【これまでの実践校】

- ◆2004年度 笠懸中、万場高、創世中等教育、昭和南小、高崎大類小
- ◆2005年度 万場高、創世中等教育、昭和南小、高崎大類小
- ◆2006年度 伊勢崎境剛志小、伊勢崎境西中、太田東中、西邑楽高、富岡高瀬小、高崎寺尾小、前橋新田小、前橋一中
- ◆2007年度 富岡高瀬小、高崎寺尾小、前橋新田小、前橋一中、高崎西部小、太田沢野中央小、太田生品中、沼田小
- ◆2008年度 太田沢野中央小、太田生品中、沼田小、伊勢崎四中、館林二中、太田女子高、尾瀬高、館林高定時制
- ◆2009年度 太田生品中、伊勢崎四中、館林二中、太田女子高、尾瀬高、板倉北小、前橋元総社中、太田高
- ◆2010年度 太田生品中、板倉北小、前橋元総社中、太田高、桐生新里北小、前橋大利根小、伊勢崎殖蓮中、勢多農林高
- ◆2011年度 板倉北小、新里北小、前橋大利根小、伊勢崎殖蓮中、勢多農林高、高崎城東小、太田西中、太田強戸中
- ◆2012年度 前橋原小、高崎片岡小、伊勢崎豊受小、千代田東小、桐生広沢中、太田西中、太田強戸中、館林商工高
- ◆2013年度 前橋原小、伊勢崎豊受小、千代田東小、高崎高松中、桐生広沢中、太田西中、太田強戸中、昭和中、館林商工高、群馬法科ビジネス専門学校、大泉保育福祉専門学校
- ◆2014年度 群馬大附属小、伊勢崎豊受小、高崎高松中、太田西中、沼田南中、昭和中、藤岡中央高、西邑楽高、館林商工高、群馬法科ビジネス専門学校、大泉保育福祉専門学校
- ◆2015年度 群馬大附属小、高崎南小、桐生川内小、太田西中、沼田南中、館林四中、甘楽二中、藤岡中央高、西邑楽高
- ◆2016年度 高崎南小、桐生川内小、昭和東小、館林四中、甘楽中、前橋富士見中、高崎一中、沼田南中、太田西中、西邑楽高
- ◆2017年度 昭和東小、沼田利南東小、高崎新高尾小、桐生相生中、太田東中、前橋富士見中、高崎第一中、沼田沼田南中、尾瀬高
- ◆2018年度 高崎新高尾小、沼田利南東小、太田東中、桐生相生中、高崎大類中、嬭恋中、沼田薄根中、伊勢崎高、尾瀬高
- ◆2019年度 沼田利南東小、館林八小、高崎大類中、高崎一中、沼田薄根中、嬭恋中、ぐんま国際アカデミー中高等部、伊勢崎高、吉井高
- ◆2020年度 太田綿打小、館林八小、沼田薄根中、高崎一中、嬭恋中、ぐんま国際アカデミー中高等部、伊勢崎高、吉井高、高崎商
- ◆2021年度 館林二小、館林八小、安中松井田小、太田綿打小、甘楽中、ぐんま国際アカデミー中高等部、沼田薄根中、高崎商、常磐高
- ◆2022年度 安中後閑小、安中松井田小、板橋西小、北の杜学園、邑楽長柄小、館林二小、甘楽中、沼田薄根中、常磐高

2024年6月発行

2023（令和5）年度

群馬県N I E実践報告書

編集 群馬県N I E推進協議会事務局
発行者 群馬県N I E推進協議会
事務局 〒371-8666 前橋市古市町1-50-21
上毛新聞社内
電話 027-254-9933（編集局代表）
<http://www.gunma-nie.org>
